

地域のチカラが学び舎を支える

地域×学校

えべつ型コミュニティ・スクール



EBETSU
江別市教育委員会

道内最多
26校に
一斉導入



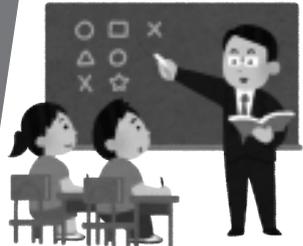
学校運営委員会は、図中
①～③の「3つの機能」
をもっています

小・中学校

**学校支援地域本部
(コーディネーター)**
地域の協力を得て、学習や
環境整備、安全確保などの
教育活動を支援します



保護者と
地域の皆さんなど



▼ 中央中の第一回学校運営委員会



「学校運営の課題」を話し合う場に
保護者・地域の皆さんなどからなる「学校運営委員会」は、子ども像や学校の重点目標などを話し合い、学校が抱える諸課題について熟慮と議論を重ねて解決したり、学校が行う自己評価を客観的に確認したりする役割を持ちます。
学校と地域との連携を深めることで、地域ぐるみで子どもたちを支える活動が継続し、充実していくことを目指しています。

地域ぐるみで子どもを育てる
「えべつ型コミュニティ・スクール」は、保護者・地域の皆さんなどに、授業や課外活動に参加していただいたり、ボランティアとして学習支援や見守り活動などにご協力いただいたりするとともに、教育や学校運営について話し合う場を設けることで、地域で学校を支える仕組みです。
江別市教育委員会は、この仕組みを市内全ての小中学校で平成29年4月に導入しました。

地域が考え実行する学校支援
保護者・地域の皆さんなどからなる「学校運営委員会」は、特色ある学校づくりを進めるために、どのように学校
より親密なものに
市内では、これまでも多くの地域の方に、子どもたちのため、活動していただいています。従来の取り組みを生かしながら、より多くの方に学校活動に参加していただくことで、地域ぐるみで子どもたちを支える活動を充実していくことを目指しています。
〔詳細〕 教育部総務課 ☎ 381-1057



各校で進む学校活動への地域参加 1・2 文京台小「地域ふれあい交流まつり」自治会や民生委員、PTA、おやじの会、学生ボランティアなどが参加し、子どもたちと交流を深めました／3 第一小「第一小 de lunch」地域の方を招き、江別産食材を使用した給食の試食と校内の見学をしました／4 第二小・第二中「地域合同清掃」小中学生と地域の方が一緒になって校区を清掃しました／5 東野幌小「子どもを守る運動」自治会とPTAが連携して安全指導や見守りを行っています／6 野幌中「防災教育」避難所運営を学ぶ授業が行われ、地域の方が参観しました



文京台小学校
みしな けいすけ
三科 圭介 校長

interview



地域参加を進める文京台小の三科校長に伺いました
「地域の縁を深め、見守りが安心感を生む」

——— 児童・生徒にとって、どんな意味がありますか

子どもたちにとっての利点は、見守ってくれる地域の方の存在を実感でき、安心感が生まれることです。また、交流を通して大人との付き合い方を学ぶとともに、顔見知りになることで地域に不審者を寄せ付けない防犯的な意味も生まれます。

——— 参加した地域の方から反響はありましたか

本校の「地域ふれあい交流まつり」では、3つの自治会の女性部が協力して、豚汁をふるまっていただきました。自治会の枠を越えて縁が深まったという声もあり、地域同士で横のつながりを広げるきっかけにもなったようです。

——— コミュニティ・スクールの導入で変わったことはありますか

地域の方の協力は以前からありましたが、コミュニティ・スクールの組織ができたことで、改めて地域の方と話し合う場ができました。また、今までは参加していなかった方からの感想や意見が聞けたことも大きな意味があります。今後は、地域の方と課題を共有する機会をより増やしていきたいと思っています。

地域の方が参加できる機会は、自治会で回覧する「学校だより」などでお知らせしています。まずは参加して、子どもたちとのつながりを深めていただきながら、地域とともにある学校に育てていただければと思います。